



かがやく女性部

4地域合同の活動を強化

～部全体の活性化を目指して～



中村さん(左)から「女性部の魅力」を聞きながら大福づくり体験を行う参加者

J A女性部フレッシユ部は、4地域合同の活動に力を入れていきます。同部では部員減少や各地域の活動内容にバラつきが見られる事が課題としてありました。解決に向けて部員同士の交流を通じ、地域毎の特色ある活動を共有し活動方針の意識統一をはかる事で、部全体の活性化を目指します。

7月27日には、4地域の部員とその子どもら20人が参加し研修会を行いました。西和賀町で「女性部活動や農村体験受け入れ」、「住民が一体となり取り組む郷土食の伝承活動」など、地域と人を繋ぐ活動を行ってしている中村キミイさん宅を訪れ、大福づくりや郷土食交流会などを体験。餅の特性や部活動での活用方法などを聞きました。作業を行った参加者からは「自分の支部でも講習会をする」「キミイさんのお話は今後の活動のヒントになった」など意欲的な声飛び交いました。

鈴木裕紀子同部長は「地域の枠を超えて共に作りあげる取り組みが、全体の意識向上と活性化につながる。4地域が団結し活動を展開していく」と力強く語りました。



きれいなまん丸のおまんじゅうを作ったよ



がんばる青年部

互いの活動報告を今後へ

～JA横浜青壮年部来組～



互いの活動を紹介し合った交流会

青年部はJ Aが姉妹提携を結んでいるJ A横浜の青壮年部と「活動報告・意見交換会」を行っており、毎年数回、双方がお互いの活動場所へと出て視察をするなど交流を行っています。

8月5日にはJ A横浜青壮年部から飯田達矢部長や、J A神奈川県青協執行委員のメンバーら8名が来組。一泊二日の日程で管内の農地やJ A子会社、沿岸被災地などを訪問して回りました。

1日目の活動報告・意見交換会ではJ Aいわて花巻青年部は活動報告として、継続している沿岸被災地復興への支援協力や交流活動、年間の事業内容を紹介。J A横浜青壮年部は機関誌「Face」のフルカラー8ページを紹介しながら各支部の活動を報告しました。



リンゴ園場を視察する部員ら

2日目は沿岸部視察として、当J Aの釜石支店を訪問。同支店職員が東日本大震災発生当時の状況やその後の支援活動などを説明。被災地巡りも行われました。交流会は互いの活動内容や、現状を見つめなおす事で、青年部活動を活性化させる良い刺激の場となっています。